

隈本邦彦レジュメ：金澤先生に聞いてみたいこと

1. 患者の物語に興味を示さない、あるいはその重要性についてあまり関心を持たない医師たちに、興味を持たせるためにはどうすればいいのでしょうか？先生はどうお考えですか？
この講義の第1回で、出てきたテーマです。
2. 現代医療では、診察、検査、投薬、手術などの医療的介入が必ず患者の（自分の）ためになるはずだ、と信じている患者が多いし、病気の発見は素晴らしいことだと信じている患者が多いと思います。メディアもだいたいそういう報道をします。医療者たちも、患者さんの病気を見つけて医療的介入をすることが、自分たちの使命だと強く感じている人が多いような気がします。でもほんとうにそうなのか、あえて医療的介入をしないほうがいいということはないのか？一度立ち止まってそれを考えるチャンスもデータも、患者にも医療者にもメディアにもないような気がします。先生はどうお考えですか？
これは昔から気になっていたテーマです。

最近話題になっている東日本大震災の中から、上記の討論のテーマをひろろうと…

- ・ ほとんどもろくな食べ物がない避難所のお年寄りが、高脂血症の薬が切れたから心配だといひ、早く薬を届けなければならないと政治家もいう。
- ・ 放射線被ばくをあれほど心配する日本国民なのに、CT検査による医療被ばくの量は、世界で飛び抜けて高い。
- ・ ほかに胃ろう、中心静脈栄養などの是非なども